

おわりに

日本国内ではリサイクル関連法の整備が進み、再生資源の回収量が増加の傾向にある。一方回収された再生資源は、国内では使用しきれない量になり、需要の旺盛な中国を中心にアジア地域に輸出されている。国内における大切な資源の確保という面から見ると、再生資源が需給関係だけで大量に輸出されることには疑問も感じられる。輸出される再生資源には、輸出先で簡単に原料化できる物もあるが、単に輸出先での解体、選別コストが安いという理由のみで、有害成分を含む廃棄物がリサイクル可能な有価物として輸出される例も散見される。解体、選別後の残渣が適切に処理されなければ、輸出相手国で環境問題を発生させる可能性も否定できない。

このような問題を具体的に把握し、事前に防止することを目的に、日本から大量の再生資源が輸出されている中国を対象に実態調査を行った。調査は中国の再資源化処理の現状を把握すると共に、GPS、ICタグ、バーコード、デジタルカメラ等のITを活用した、透明性のある流通、処理フローの実現性とそのトレーサビリティの可能性を実証試験した。

本報告は実態調査と実証試験の結果について報告しているが、限られた時間の中で精力的に調査、実証試験を実施し、今後の検討に資する成果を見出せたと考える。

今回の調査においては、トレーサビリティ実験用の国産GPS使用に対する中国当局の許可の問題など、更なる調査の必要性も感じられた。また再生処理については、出来るだけ環境負荷の少ない処理フローの確立や、透明性確保のためのトレーサビリティシステムの構築を行い、モデルケースとして早急に運用を実施して、アジア地域への再生資源の輸出ルールの確立と日系企業への最適なりサイクル処理フローの提案をする必要があると思われる。

おわりに、今回、経済産業省からの委託業務として、早稲田大学、リサイクル事業者、システムデザイン会社の環境事業に精通した方々で、委員会を組織し、産学協同で調査、実証試験が出来たことは、国際資源循環を考える上で非常に参考になり、今後の活動に当って心強いものがあった。

また、現地調査の実施にあたって多大なご協力を頂いた、中国政府、地方政府、現地関係会社の方々、今回の調査業務に携わられた方々に深く感謝の意を表す。